

支援事例

商工会名	水上村 商工会	氏名	伊藤 大輝	情報開示の可否	可
支援テーマ	経営革新	題名	地域の事業者と連携してクロモジ茶を活用した新たな焼酎の開発		
	販路拡大・販路支援				

<支援企業の概要>

事業所名	(株) Kototoba	従業員	3 人	創業/ 会社設立	創業日	2021年3月22日
業種	宿泊・飲食サービス業	うち家族従業員	人		業歴	4年0ヶ月

○企業概要
令和3年3月に宿泊施設を事業承継し、営業を開始。
今までとは違ったコンセプトでレストランを併設するなど、事業を展開してきている。
熊本発の地方創生ベンチャーとして、まずは熊本を元気にするべく、熊本の町や村の創生の一助を目指している。
①宿泊、飲食施設の再生事業（自社運営、コンサルティング、運営代行）
②観光レジャーコンテンツ開発運営事業
③地方創生事業（観光企画開発、地域特産品開発、イベント企画）

○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題
【支援課題・支援計画】
（支援課題）事業計画を進めるためには、補助金の活用が必要
（短期計画）熊本県が実施する新商品開発等支援補助金を活用し、地域の特産品を活用した焼酎の開発
（中長期計画）新事業の拡大
（現状分析）
・強み→ITやイベントに強い。地域に根差していた宿泊施設を引き継いでいるため、地域との連携・情報に強い。
地域外にも多くの繋がりがある。
・弱み→社会情勢として、労働力の調達が難しい。
・機会→既存の顧客に加え、外国人観光客や宿泊客等が増えつつある。健康志向が高まっている。
・売れ筋商品・顧客ニーズの把握：都会にはない自然を活かした体験型のサービス
・競合する店舗等：地域内に複数の宿泊施設がある

○支援内容および支援後の状況・効果
フェーズ1 地域の物を活かした新商品開発の計画策定
コロナ禍が落ち着き、徐々に回復しつつあるが、人の動きはまだ鈍い状況。物価高や燃料高騰等の影響もあり、取り巻く環境は不安定な状況であり、今後に向けての新たな収入確保が課題であった。加えて、地域の物を活かした新商品を開発することで、地域の魅力をより多くの人に伝えていく必要があると考えた。
そこで当事業者が考えたのは、地域のクロモジ茶生産者、酒蔵と連携した新商品の開発であった。
クロモジ茶は古来より貴重な健康茶として飲み継がれており、リラックス効果もあるため、コロナ禍によって健康志向もより高まっている状況も活かした新商品を開発したいとの思いもあった。
熊本県が実施する新商品開発等支援補助金を活用することとし、締め切りが短く、タイトな状況であったが、入念に打合せを行い、計画内容の充実は図っていった。特に、代表のコネクションを活かした都内飲食店でのテストマーケティングや今後の事業展開など、効率よく商品をブラッシュアップしてより良い商品にしていき、それをより多くの方に手に取っていただけるような仕組みを検討し、計画に盛り込んだ。
(進捗・成果)
新商品開発等支援補助金は採択を受けることができ、年内に商品を形にしていき、テストマーケティングを行う計画。これまでにクロモジ茶の生産者や酒造の方と打合せを重ねていたため、開発はスムーズに進んでいくと思われる。

○今後について（目標や課題など）
試作品ができ次第、地域内外の小売店や飲食店でのテストマーケティングを行い、商品をブラッシュアップに繋げていく。テストマーケティングとブラッシュアップを重ねて、令和7年10月頃に、完成品を販売開始とする計画となっている。